

第 10 回 航空機運航 DX 推進に向けた検討会 議事概要

日時： 令和 5 年 11 月 24 日(金) 10:00 ~ 11:40 Web 会議

<1. 開会>

航空局交通管制部長挨拶

本検討会も第 10 回を迎え、航空局が保有する航空機運航データの利活用、連携を図るために、ステークホルダの皆様と新たなニーズを掘り起こす場として森川座長を中心に幅広い関係者のみなさまからご意見をいただいていた。

本日の検討会では、要望が多く、必要性が高い4つの個別テーマの取り組み状況の報告と、航空局からは来年度末に導入を予定している SWIM の進捗状況をご説明した上で、今回も立場にとらわれない活発な議論をお願いしたい。

航空局委員変更紹介

交通管制企画課 大坪課長
管制課 石川課長
運用課 小林課長
管制技術課 山口課長

<2. 議事>

(1) 個別テーマ毎の進捗状況

(a) 個別テーマによる検討の概要

事務局から説明

(b) リアルタイム情報共有の改善 進捗報告

NAA から説明

(c) 旅客情報の共有可能範囲検討 進捗報告

JAL から説明

(d) 申請手続きのデジタル化 進捗報告

事務局および航空局運用課から説明

(e) 地方空港における業務効率化・負担軽減 進捗報告

事務局および航空局空港技術課から説明

意見交換

- 一元的に管理できる情報を共有するという考え方はベースラインとしては適切。その上で共有することにより、効果の高い情報を共有していくことが必要。そのためにはルール策定が重要。(武市先生)
- ルール策定は重要なポイントと考えている。現在 SWIM の導入準備会を立ち上げ、実務担当者レベルでデータ管理のガバナンスのあり方を検討している。誰がこの情報にアクセスできるのか、どこまで共有できるのかといったところを決定し、ポータルサイトで共有す

ることを考えている。(事務局)

- 「リアルタイムな情報共有の改善」に関する議論において、異なる環境で運営されている空港会社や航空会社などの状況が相互に把握でき、理解が深まった。非常に有意義に議論できたと感じている。(NAA)
- 「申請手続きのデジタル化」に関する議論に対して、今後の具体的な進め方、方向性、タイミングも含め、航空局には迅速に動いていただいたことに感謝したい。大幅な生産性向上等の効果が期待できる。引き続き積極的に協力したい。(ANA)
- 「旅客情報の共有範囲検討」に関する議論において、各事業者の持つ多様なニーズに対応するため、抽象的なところから議論を始め、一元的に管理することで効果が得られる情報について議論した。全体の目安を作った上で個別の具体的な議論を進めることで、多様な要望をうまくまとめることができた。(JAL)
- 「地方空港における業務効率化・負担軽減」に関する議論において、地方空港の立場として航空局と DX に関して積極的に議論ができる場を設定いただいたことは有意義であった。(南紀白浜エアポート)
- 4 つの検討チームでの議論の結果、関係者間で共有していくべき情報について提示いただけたことは非常に有意義であった。DX の「デジタル」と「トランスフォーメーション」のうち、「トランスフォーメーション」の部分は、それを担うことができる人材が不足しているところが課題であるといえる。(南紀白浜エアポート)

(2) SWIM の進捗報告

- SWIM 運営協議会では、ぜひフラットな雰囲気での議論およびインプットができるように進めていただくことを期待している。(森川座長)

<3. 閉会>

航空局交通管制部長挨拶

本検討会では、みなさまから空港運営、事業運営に関わる DX の推進について、フラットな立場でさまざまなニーズ、シーズに関するご意見をいただいたところ。SWIM の導入を含め、DX の推進に関して非常に大きな成果があったと実感している。SWIM については、来年度の運用開始を見据え、今年度中に SWIM 運営協議会を立ち上げて、導入準備会とあわせて具体的な議論を加速させていく。本検討会での議論も踏まえ、ステークホルダの方々にとって役に立つサービスにつなげていきたい。SWIM 運営協議会は本検討会と多くの重複部分が出てくる。本検討会のあり方については森川座長、関係各位とともに検討したい。今後も引き続き、加速し複雑化していく航空行政へのご協力をお願いしたい。

森川座長

本検討会では、多くの方々からさまざまな要望やポイントをインプットいただいたことは非常に有意義であったと考えている。SWIM 運営協議会でも同様のフラットな雰囲気での議論を期待している。

以上